

● モンテッソーリ幼稚園（子育て支援）を訪ねて

団員 寺井 克之

今回の視察において、私が担当する子育て支援について、ローマにあるモンテッソーリ幼稚園を訪問し、イタリアの幼児教育の視察を行ったので報告をいたします。

ローマの住宅街のはずれ、ラルゴ・バスティアという地区にバンゴ・デ・イタリア（イタリア銀行）の広大な土地があり、大きな鉄の門に囲まれた敷地内には、古代ローマの市街地の壁が通っています。

守衛のチェックを受けて、古代ローマの壁沿いを歩くと「カサ・デ・バンビエーニ」の表札がある2階建てのモンテッソーリ幼稚園に到着しました。



（カルラ・チェヴェニーニ園長からの説明）

早速、広い部屋に案内していただき、園児が使用する長椅子に輪になって、カルラ・チェヴェニーニ園長先生からお話を伺いました。

まず、モンテッソーリ教育とは、創始者のマリア・モンテッソーリが1907年に、ローマのスラム街サン・ロレンソに設けられた労働者アパートに6歳以下の保育施設「子どもの家」

を設け、幼児教育に関し徹底的な研究のもと、目を見張るような実践上の成果を上げました。

その目的は、「子どもは自らを成長・発展させる力をもって生まれてくる。大人は、その要求を汲み取り、自由を保障し子どもたちの自発的な活動を援助する存在に徹しなければならない。」という考え方にあるように、自立していて、有能で責任感と他人への思いやりがあり、生涯学びつづける姿勢を持った人間に育てることを目的としています。

そして、その方法は子どもたちに自発的な活動に取り組む自由を保障し、そ

のために整えられた環境を整備することとしています。

その環境とは、

①子どもが自分で自由に教具を選べる環境構成

②やってみたいなと思わせる面白そうな教具

③社会性・協調性を促すための、3
歳の幅を持つ異年齢混合クラス
編成

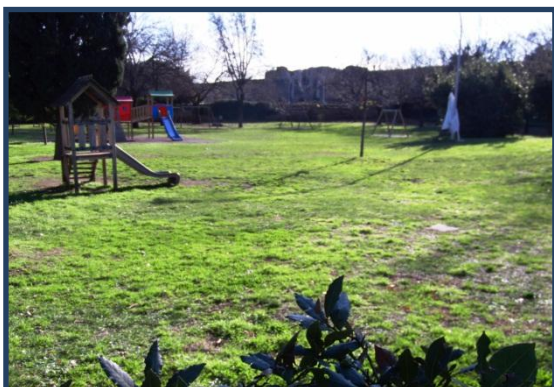
④子ども一人ひとりそれぞれの発
達段階に適した環境を整備し、子
どもの自己形成を援助する教師
の4つの要素を満たすもので、教師
は教える人ではなく、子どもを観察
し自主活動を援助する人的環境要
素としています。



(幼稚園内での視察の様子)

この園では、幼稚園児150名、保育園児16名が通っていて、幼稚園では2歳半から5歳半の30名を5つのグループに縦割りで構成し、子どもたちに年齢差を超えて仲間意識を持たせるようにしています。

保育士は1グループ2名で、7時30分～18時30分の間を3交代でシフト対応をし、食事は、朝食・昼食・おやつを2名の調理師が作りグループ別で食事を行っています。



(芝生化された幼稚園のグラウンド)

園内では、自由に絵画を描く子どもたち、長さや大きさなど色々と組み合わせて考えている子ども、また洋服のボタンがけの練習している子どももいて、自由に自分たちの授業を楽しんでいる姿はとてもうれしそうでした。

また、保育園には、6月～2歳半の園児16名が在園しており、近年、両親と子どもが一緒にいる時間が少なくなっているため園の教育がとても大事だと強調されていました。

現在、日本では家庭の教育力の低下が問題になっています。この点について、イタリアはどうか、チェヴェニーニ園長にお伺いすると、長年、子どもたちと接しているが、イタリアでも同様であると感じているとのことでありました。両親が子どもといる時間が徐々に少なくなってきており、教育レベルの低下、また、教育ができないレベルにもなってきているとのことのお話でありました。このことについては、モンテッソーリ教育は、しつけやマナーは家庭だけに任せるのではなく、年齢の区分でなく縦割りのグループで教育をしており、「年齢がミックスされることにより、年長者が辛抱しながら年少者の面倒を見るということ覚え、年少者もその年長者を見て、そのようになろうとし、そこで自然にしつけ等が生まれる。」とのことでありました。



(カルラ・チェヴェニーニ園長を囲んで)

現在、少子化のため、子ども同士の関わり合いが少なくなっており、また、家庭の教育力の低下もあり、幼児教育という中で、異年齢間の子ども同士が生活しながら「しつけ」や「マナー」を学んでいくということについては、大変興味深くその必要性を感じたところであります。子どもたちを取り巻く社会の状況に応じた幼児教育の在り方を肌で感じることができ、これら貴重な体験を今後の活動に生かしていきたいと思えます。